

昭和六年土木學會
鐵筋コンクリート標準示方書

〔禁 轉 載〕

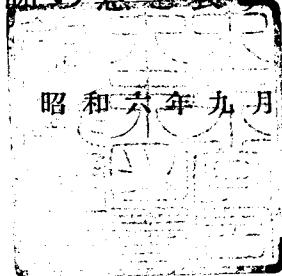
土木學會コンクリート調査會

昭和六年九月

序

輓近土木工學の發達に伴ひコンクリート及鐵筋コンクリートを適用すべき機會益々多からんとするに當り之が標準示方書を要望すること甚切なるものあり、依つて土木學會は昭和三年九月コンクリート調査會を設置し爾來三箇年に亘り幹事會二十回委員總會一回を開き慎重審議の結果本示方書の成案を見るに到れり。

茲に委員幹事各位の熱心なる努力に對し深甚なる感謝の意を表す



土木學會コンクリート調査會委員長

大河戸宗治

登録	昭和40年5月14日
番号	第 号
登記人	土木學會
附屬	土木図書館

土木學會コンクリート調査會委員 (五十音順)

(昭和三年九月設立)

委員長	大河戸宗治	吉治郎
幹事長	大永山彌次郎	平郎
委員		
阿部美樹志	阿部邦衛	榮英泰保
○井上隆根一	阿井上真	太利英良
石井頴三郎	川生康基	榮太重
内村敬三郎	瓜小三郎	寅寅德
○岡田野宗忠	○岡田池太郎	章之全
狩北澤忠四郎	菊久清	二復光
○黒河木雅	○高關高水	寅太長
○田中甚	○高橋弘	路穂昇
高橋治三郎	徳糠春	藏穂昇
○中山忠三郎	本橋惟	樹
故根忠三郎	糠本正	嘉
久野重三郎	橋平惟	太郎
福来健一郎	○藤牧正	次
眞島健三郎	牧三輪	良
○三浦七郎	山口	次
山内田静忠	山輪	北村
山田忠雄	山口	嘉太郎
山吉田彌亨	横山花郎(嘱託)	(嘱託)

○印：幹事ヲ示ス

土木學會

鐵筋コンクリート標準示方書

目 次

第一章 總 則	(1)
第一條 適用の範圍	(1)
第二章 定 義	(2)
第二條 術 語	(2)
第三條 記 號	(3)
第三章 コンクリートの品質	(5)
第四條 強 度	(5)
第五條 抗壓強度試験	(5)
第四章 材 料	(6)
第六條 總 則	(6)
第一節 セメント	(6)
第七條 ポルトランド・セメント及高爐セメント	(6)
第二節 細骨材	(6)
第八條 總 則	(6)
第九條 粒 度	(6)
第十條 細骨材に於ける有機不純物	(6)
第十一條 特別の場合	(6)
第三節 粗骨材	(7)
第十二條 總 則	(7)
第十三條 粒 度	(7)
第十四條 特別の場合	(7)
第四節 水	(7)
第十五條 總 則	(7)
第十六條 海 水	(7)
第五節 セメント及骨材の貯藏	(8)
第十七條 セメントの貯藏	(8)
第十八條 骨材の貯藏	(8)
第六節 鐵 筋	(8)
第十九條 材 質	(8)
第二十條 標準寸法	(8)
第五章 配合及水量	(9)
第二十一條 總 則	(9)
第二十二條 配合の表はし方	(9)
第二十三條 セメントの最小使用量	(9)
第二十四條 水—セメント重量比	(9)

第二十五条	ウォーカビリチー	(9)
第二十六条	材料の計量	(10)
第六章 混合		
第二十七条	機械練り	(11)
第二十八条	手練り	(11)
第二十九条	練返し	(11)
第三十条	試験	(11)
第七章 填充及養生		(12)
第一節 填充		(12)
第三十一条	準備	(12)
第三十二条	取扱ひ	(12)
第三十三条	撻卸し	(13)
第三十四条	捣固め	(13)
第三十五条	打足し	(13)
第三十六条	寒中コンクリートの施工	(13)
第二節 養生		(14)
第三十七条	養生	(14)
第三節 接合		(14)
第三十八条	總則	(14)
第三十九条	施工接合	(14)
第四十条	柱に於ける施工接合	(14)
第四十一条	床に於ける施工接合	(15)
第四十二条	伸縮接合	(15)
第四十三条	滑り面接合	(15)
第四十四条	水密施工接合	(15)
第八章 鐵筋工		(16)
第四十五条	掃除	(16)
第四十六条	鐵筋の加工	(16)
第四十七条	鐵筋の組立	(16)
第四十八条	鐵筋の継手	(16)
第九章 型枠		(17)
第四十九条	總則	(17)
第五十条	堰板	(17)
第五十一条	型枠及支保工	(17)
第五十二条	組立	(17)
第五十三条	面取	(17)
第五十四条	塗油	(17)
第五十五条	一時的開口	(18)
第五十六条	型枠の取外し	(18)
第十章 鐵筋の保護として必要なるコンクリートの厚さ		(19)
第五十七条	普通の場合	(19)

第五十八條	耐火構造の場合	(19)
第五十九條	海中に於ける場合	(19)
第十一章 防水	水	(20)
第六十條	總則	(20)
第六十一條	防水剤の混和	(20)
第十二章 海水の作用を受くる鉄筋コンクリート	(21)
第六十二條	配合	(21)
第六十三條	填充	(21)
第六十四條	鉄筋及コンクリートの保護	(21)
第十三章 表面仕上げ	(22)
第六十五條	表面仕上げ	(22)
第十四章 現場に於けるコンクリート抗壓強度試験及載荷試験	(23)
第六十六條	現場に於ける抗壓強度試験	(23)
第六十七條	載荷試験	(23)
第十五章 荷重及溫度變化	(24)
第六十八條	死荷重及活荷重	(24)
第六十九條	溫度變化及硬化收縮	(24)
第十六章 計算	(25)
第七十條	應力の計算	(25)
第七十一條	彈性係數	(25)
第七十二條	集中荷重の分布	(25)
第十七章 許容應力	(27)
第七十三條	コンクリートの許容應力	(27)
第七十四條	鉄筋の許容應力	(28)
第七十五條	地震力を考慮したる場合の許容應力	(28)
第十八章 設計細目	(29)
第七十六條	設計細目	(29)
第十九章 版及桁	(30)
第一節 設計細目	(30)
第七十七條	版	(30)
第七十八條	矩形桁及T桁	(30)
第二節 外力に依る彎曲率及剪力	(31)
第七十九條	版及桁の支間	(31)
第八十條	一方向にのみ主鉄筋を有する連續版の彎曲率	(31)
第八十一條	二方向に主鉄筋を有する版の彎曲率	(32)
第八十二條	連續桁の彎曲率	(33)
第八十三條	版及桁の剪力	(33)
第三節 内力	(33)
第八十四條	獨立せる桁	(33)
第八十五條	T桁の突端	(34)
第八十六條	隅縁及ハウチ	(34)

第八十七條	剪 應 力	(34)
第八十八條	附 著 應 力	(35)
第二十章 鉄筋コンクリート柱	(36)
第一 節 設計細目	(36)
第八十九條	帶 鐵 筋 柱	(36)
第九十條	螺旋 筋 柱	(36)
第二 節 外 力	(36)
第九十一條	外 力	(36)
第三 節 内 力	(37)
第九十二條	帶 鐵 筋 柱	(37)
第九十三條	螺旋 筋 柱	(37)
第九十四條	中心軸荷重を受くる長柱	(37)
第九十五條	偏心軸荷重又は彎曲率を受くる柱	(37)

附 錄 試 験 方 法

第一 章 骨材節分け試験に関する標準方法	(39)
第一 條 試 料	(39)
第二 條 篩	(39)
第三 條 試験方法	(39)
第四 條 報 告	(40)
第二 章 骨材寸法試験に関する標準方法	(41)
第五 條 器 具	(41)
第六 條 試 料	(41)
第七 條 試験方法	(41)
第八 條 結果の計算	(41)
第九 條 檢 算	(41)
第三 章 砂の有機不純物試験に関する標準方法	(42)
第十 條 總 則	(42)
第十一 條 試 料	(42)
第十二 條 試験方法	(42)
第四 章 骨材の単位容積重量試験に関する標準方法	(43)
第十三 條 器 具	(43)
第十四 條 量器の検照	(43)
第十五 條 試 料	(43)
第十六 條 試験方法	(43)
第十七 條 精 度	(43)
第五 章 ウオーカビリチー試験に関する標準方法	(44)
第十八 條 試 料	(44)
第十九 條 試験及結果	(44)
第六 章 コンクリート抗壓强度試験に関する標準方法	(46)
第二十 條 總 則	(46)

鐵筋コンクリート標準示方書

第二十一條	供試體の形狀、寸法及數	(46)
第二十二條	材料の準備	(46)
第二十三條	材料試験及其試料採取	(46)
第二十四條	セメントの試験	(46)
第二十五條	細骨材の試験	(47)
第二十六條	粗骨材の試験	(47)
第二十七條	型	(47)
第二十八條	材料の計量	(47)
第二十九條	コンクリート	(47)
第三十條	ウォーカビリチー	(48)
第三十一條	填充	(48)
第三十二條	供試體の上面仕上げ	(48)
第三十三條	型の取外し及養生	(48)
第三十四條	供試體の運搬	(48)
第三十五條	供試體の材齡	(49)
第三十六條	試験の準備	(49)
第三十七條	試験荷重を加へる方法	(49)
第三十八條	試験の結果	(49)
第三十九條	報告	(49)

参考篇

鐵筋コンクリートの断面設計及應力計算

(A) 曲率のみを受くる場合	(51)
(1) 単鐵筋矩形断面	(51)
(2) 複鐵筋矩形断面	(52)
(3) 単鐵筋 T 形断面	(53)
(4) 複鐵筋 T 形断面	(54)
(B) 曲率及軸力又は偏心軸力を受くる場合	(55)
(1) 単鐵筋矩形断面	(55)
(1b ₁) 偏心距離小にして σ'_c (張應力の場合) $< \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合	(55)
(1b ₂) 偏心距離大にして σ'_c (張應力の場合) $> \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合	(56)
(2) 複鐵筋矩形断面	(57)
(2b ₁) 偏心距離小にして σ'_c (張應力の場合) $< \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合	(57)
(2b ₂) 偏心距離大にして σ'_c (張應力の場合) $> \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合	(58)
(3) 単鐵筋 T形断面	(59)
(3b ₁) 偏心距離小にして σ'_c (張應力の場合) $< \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合	(59)
(3b ₂) 偏心距離大にして σ'_c (張應力の場合) $> \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合	(60)
(4) 複鐵筋 T形断面	(61)
(4b ₁) 偏心距離小にして σ'_c (張應力の場合) $< \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合	(61)
(4b ₂) 偏心距離大にして σ'_c (張應力の場合) $> \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合	(62)
(5) 八角形断面	(63)

- (5b₁) 偏心距離小にして σ'_c (張應力の場合) $< \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合 (63)
(5b₂) 偏心距離大にして σ'_c (張應力の場合) $> \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合 (64)
(6) 圓形断面 (66)
(6b₁) 偏心距離小にして σ'_c (張應力の場合) $< \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合 (66)
(6b₂) 偏心距離大にして σ'_c (張應力の場合) $> \frac{1}{3}\sigma_{ca}$ の場合 (67)